

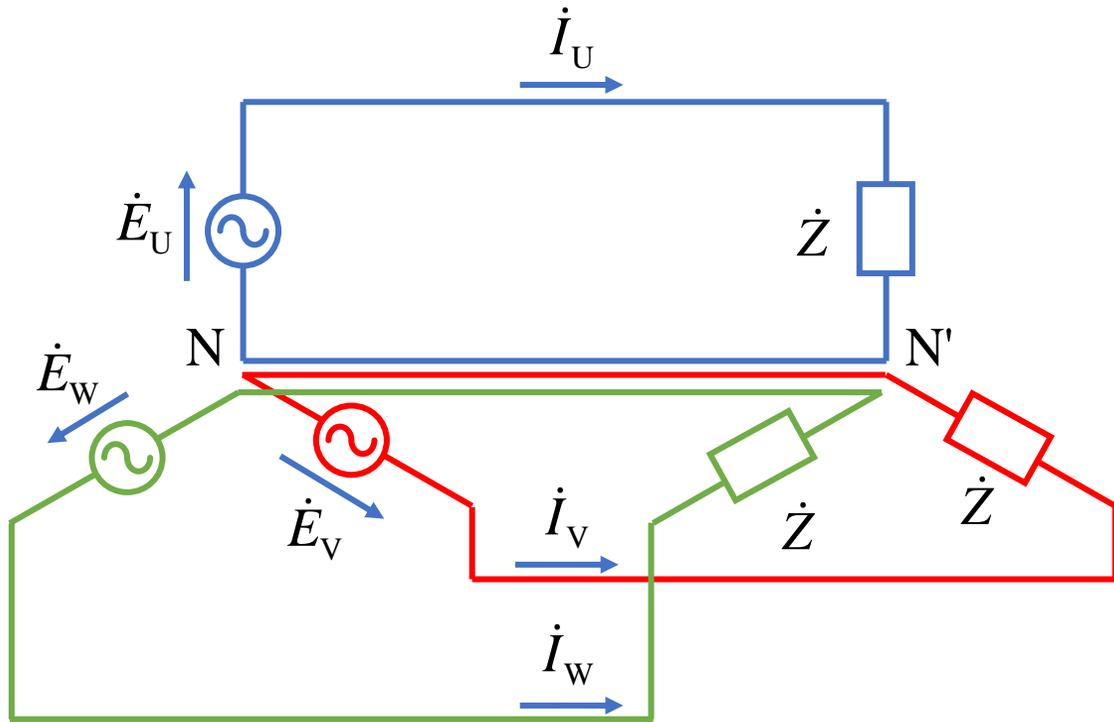
27. 対称三相交流回路 (3)

27. Symmetrical Three-phase AC Circuit (3)

講義内容

- 1. 対称三相交流の電力**
- 2. 対称三相交流のまとめ**
- 3. 二電力計法：ブロンデルの定理**

対称三相交流の電力：Y-Y結線



Y-Y結線には **環状** 電流が無い

相 電圧の大きさ： V
線 電流の大きさ： I
電圧と電流の **位相差**： θ_Z

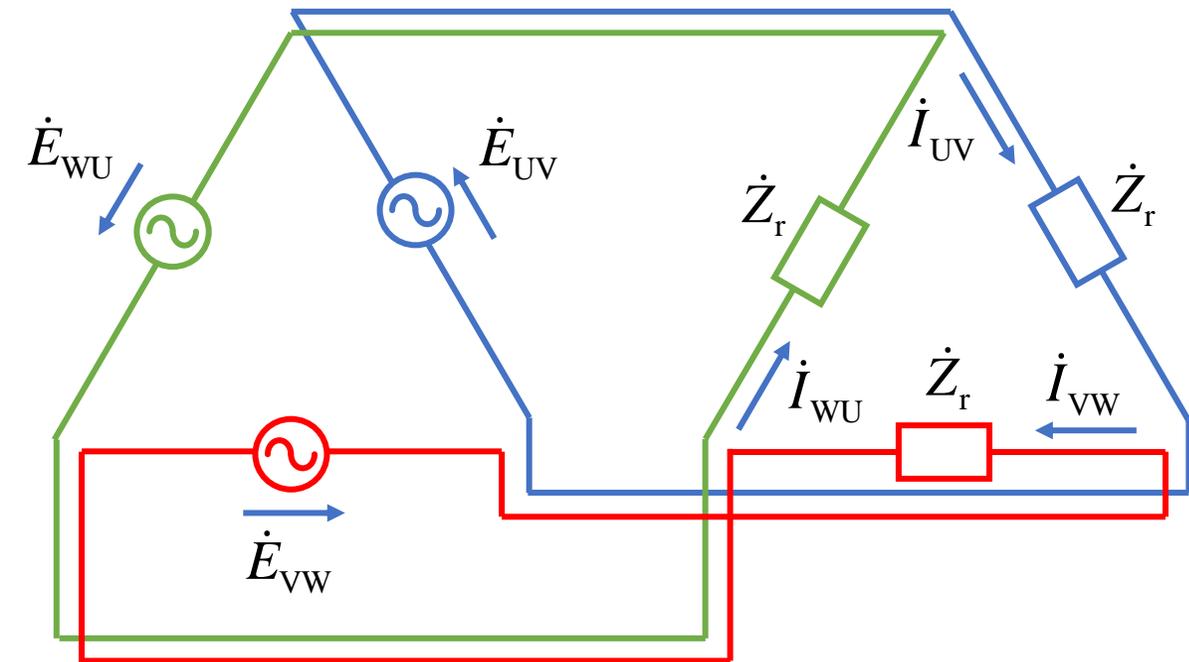
U相が **基準**

1 相あたりの **有効** 電力： $P_U = VI \cos \theta_Z$
3 相 **有効** 電力： $P = 3VI \cos \theta_Z$

線間 電圧の大きさ： V_r
線間 電圧と **相** 電圧の関係： $V_r = \sqrt{3}V$

$\therefore P = 3VI \cos \theta_Z = 3 \frac{V_r}{\sqrt{3}} I \cos \theta_Z = \sqrt{3} V_r I \cos \theta_Z$

対称三相交流の電力： Δ - Δ 結線



Δ - Δ 結線には **相** 電圧が無い
(※ **中性点** からの **相** 電圧が無い)

線間 電圧の大きさ： V_r
環状 電流の大きさ： I_r
電圧と電流の **位相差**： θ_{Z_r}

U-V相が **基準**

1 相あたりの **有効** 電力： $P_{UV} = V_r I_r \cos \theta_{Z_r}$
3 相 **有効** 電力： $P = 3V_r I_r \cos \theta_{Z_r}$

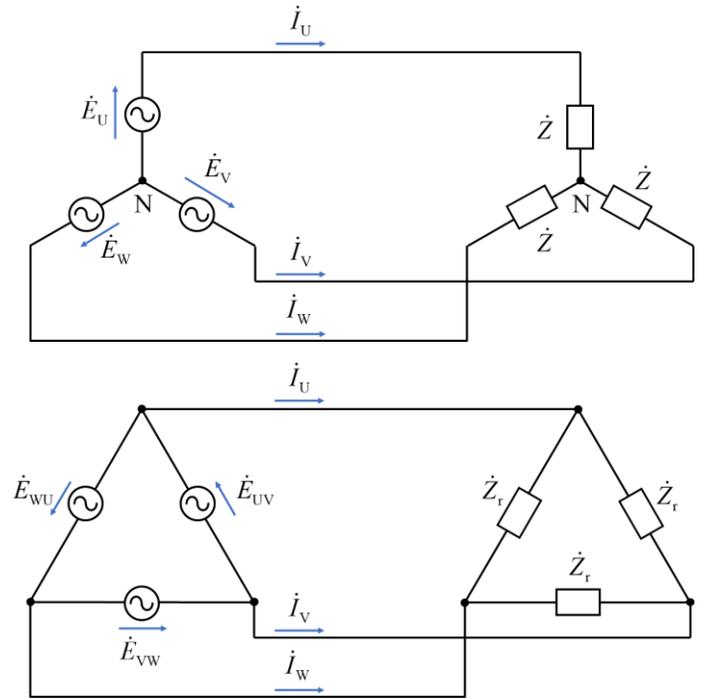
線 電流の大きさ： I
線 電流と **環状** 電流の関係： $I = \sqrt{3}I_r$

$\therefore P = 3V_r I_r \cos \theta_{Z_r} = 3V_r \frac{I}{\sqrt{3}} \cos \theta_{Z_r} = \sqrt{3}V_r I \cos \theta_{Z_r}$

対称三相交流のまとめ

各種 **Y-Δ** 変換 : **Y-Y** 結線か **Δ-Δ** 結線になるように変換

- 対称三相交流 **電圧** : 線間電圧 $V_r = \text{相電圧} V \times \sqrt{3}$
- 対称三相交流 **電流** : 線電流 $I = \text{環状電流} I_r \times \sqrt{3}$
- 三相平衡 **インピーダンス** : Δ 結線負荷 $Z_r = Y$ 結線負荷 $Z \times 3$



3相 **有効** 電力

- Y-Y結線 : $P_{Y-Y} = 3VI \cos \theta_Z = \sqrt{3}V_r I \cos \theta_Z$
- Δ-Δ結線 : $P_{\Delta-\Delta} = 3V_r I_r \cos \theta_{Zr} = \sqrt{3}V_r I \cos \theta_{Zr}$

対称三相交流の **有効** 電力は結線に **よらず**, 次式で表すことが可能

$$P = \sqrt{3} \times \text{線間電圧} \times \text{線電流} \times \text{負荷の力率}$$

二電力計法：ブロンデルの定理

ブロンデルの定理 (Blondel's Theorem)

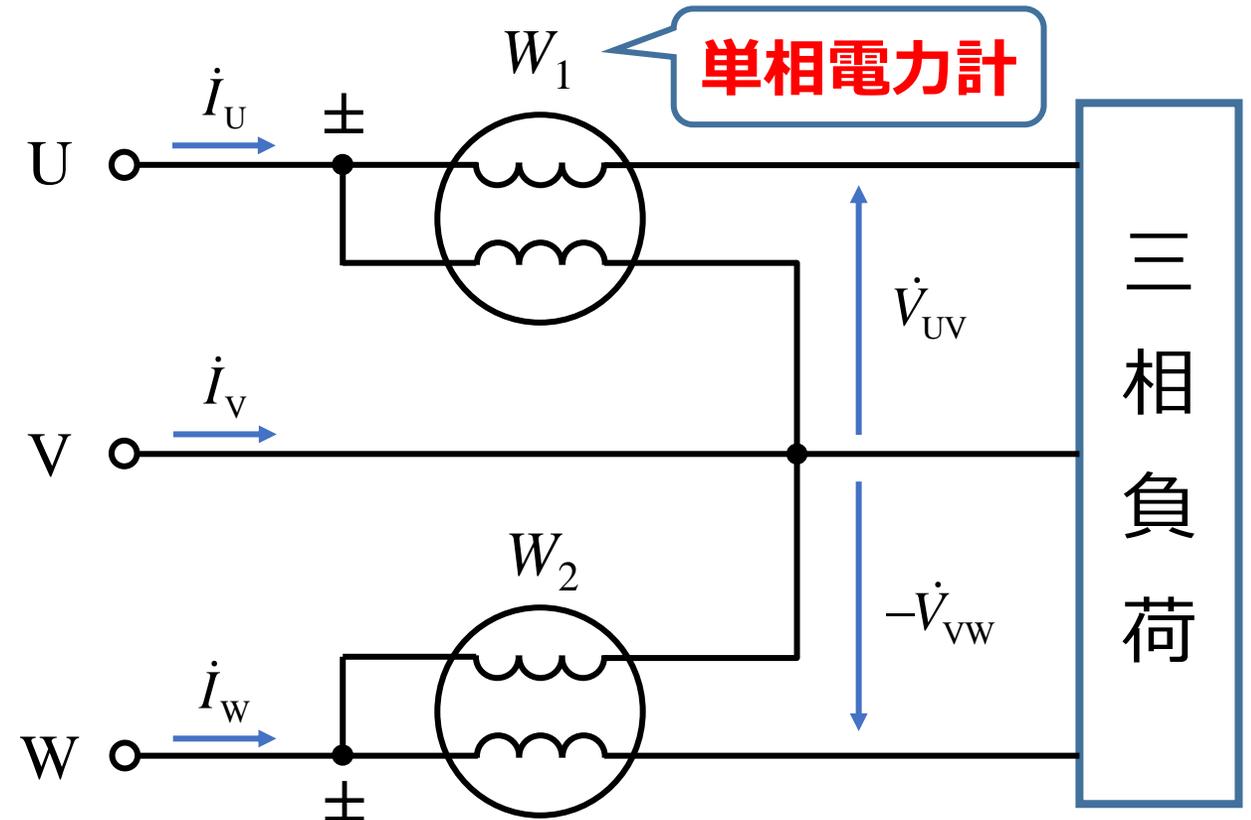
n 相 n 線式の (有効) 電力は $n-1$ 個の单相電力計を用いて計測することができる

- **非対称** , **不平衡** でも成り立つ
- 中性線がある場合でもない場合でもよい

单相電力計は1相あたりの **線** 電流と **線間** 電圧を測定するように結線
(上記パラメータは各結線方法に存在)

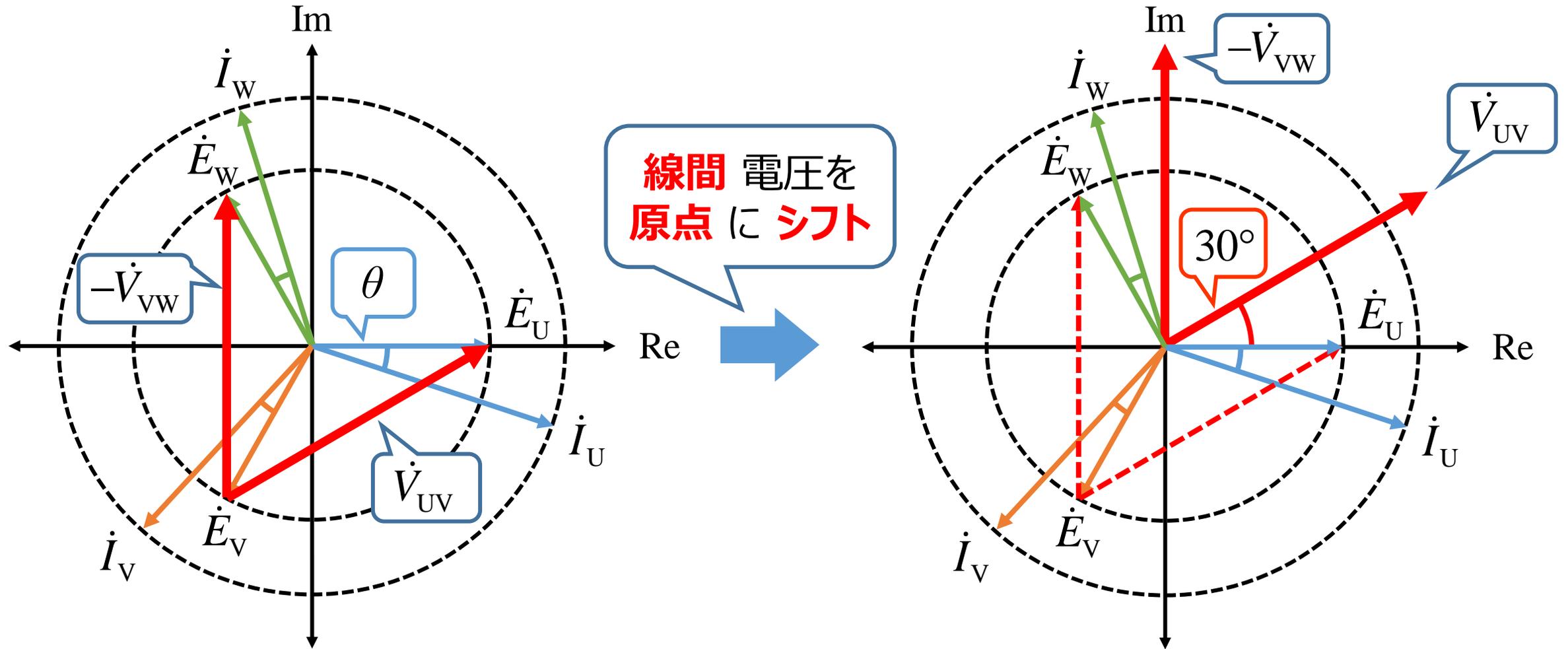


W_1 : i_U と \dot{V}_{UV} を測定
 W_2 : i_W と $-\dot{V}_{VW}$ を測定



対称平衡三相回路（電源はY結線とする）

負荷の位相角を θ （遅れ）とすると，ベクトル図は下図のようになる（電流が電圧より θ 遅れ）



対称平衡三相回路（電源はY結線とする）

ベクトル図より, W_1 の電力 P_1 は,

$$\begin{aligned} P_1 &= |\dot{V}_{UV}| |I_U| \cos(\dot{V}_{UV} \text{と} I_U \text{の位相差}) \\ &= |\dot{V}_{UV}| |I_U| \cos(30^\circ + \theta) \end{aligned}$$

W_1 の 測定値

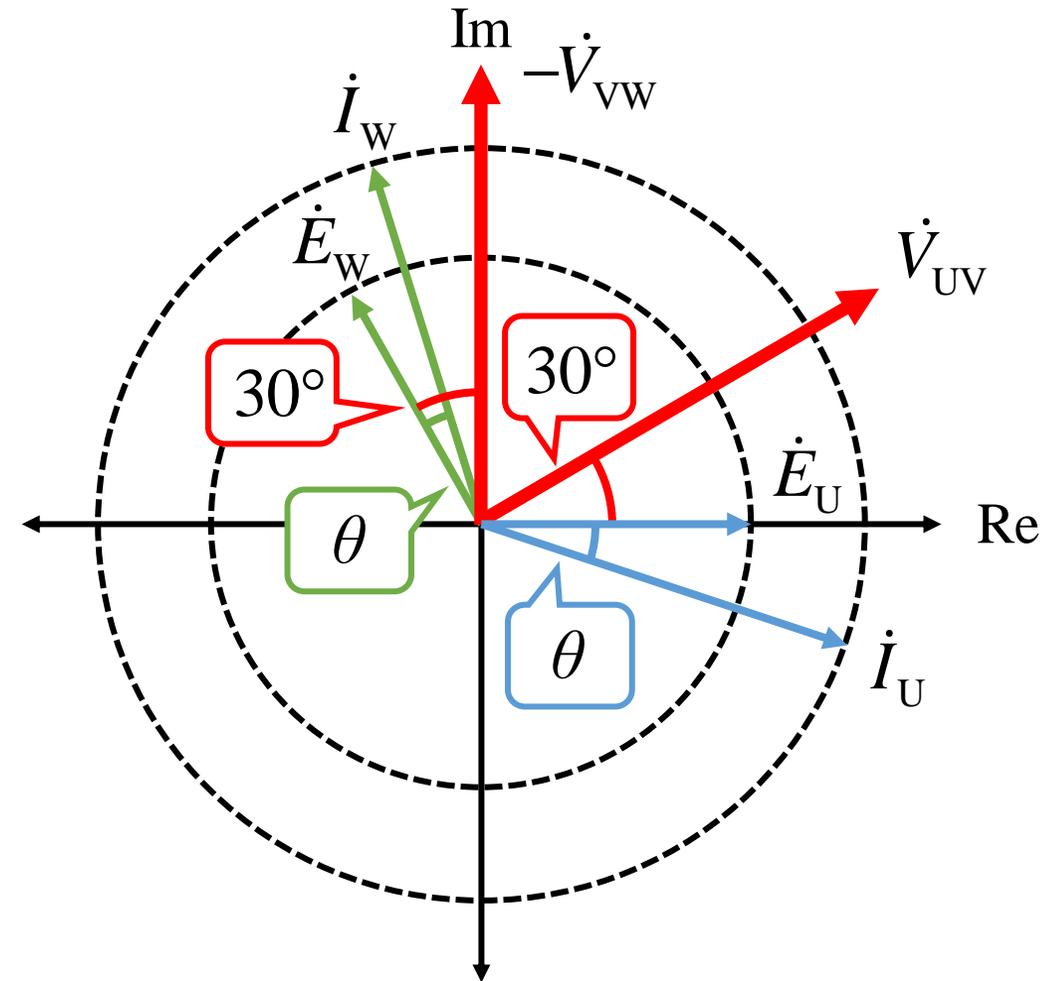
同様に, W_2 の電力 P_2 は, (※大きさは**絶対値**)

$$\begin{aligned} P_2 &= |\dot{V}_{VW}| |I_W| \cos(-\dot{V}_{VW} \text{と} I_W \text{の位相差}) \\ &= |\dot{V}_{VW}| |I_W| \cos(30^\circ - \theta) \end{aligned}$$

W_2 の 測定値

電圧及び電流の大きさは各相で **等しい** ため,

$$|\dot{V}_{UV}| = |\dot{V}_{VW}| = V_r = \sqrt{3}V \quad , \quad |I_U| = |I_W| = I$$



二電力計法による三相有効電力の測定

両電力計 W_1, W_2 の各（**有効**）電力 P_1, P_2 の**和**は

$$P_1 + P_2 = V_r I \cos(30^\circ + \theta) + V_r I \cos(30^\circ - \theta) = V_r I \{ \cos(30^\circ + \theta) + \cos(30^\circ - \theta) \}$$

三角関数の**積和**の公式

$$\cos \alpha \cos \beta = \frac{1}{2} \{ \cos(\alpha + \beta) + \cos(\alpha - \beta) \} \quad \Rightarrow \quad \cos(\alpha + \beta) + \cos(\alpha - \beta) = 2 \cos \alpha \cos \beta$$

$$\therefore P_1 + P_2 = V_r I \times 2 \cos 30^\circ \cos \theta = V_r I \times 2 \times \frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta = \sqrt{3} V_r I \cos \theta = 3VI \cos \theta$$

三相 **有効** 電力

これにより、**2**つの電力計の指示値の**和**が三相**有効**電力と等しいため、**ブロンデル**の定理が証明された（**二電力計**法による**三相**電力が**測定**可能）

※ θ が**60°**以上の場合、 $P_1 < 0$ となるので、電力計の電圧コイルの極性を変える必要がある

二電力計法による三相無効電力の測定

両電力計 W_1 , W_2 の各電力 P_1 , P_2 の **差** は

$$P_2 - P_1 = V_r I \cos(30^\circ - \theta) - V_r I \cos(30^\circ + \theta) = V_r I \{ \cos(30^\circ - \theta) - \cos(30^\circ + \theta) \}$$

三角関数の **積和** の公式

$$\sin \alpha \sin \beta = -\frac{1}{2} \{ \cos(\alpha + \beta) - \cos(\alpha - \beta) \} \quad \Rightarrow \quad \cos(\alpha - \beta) + \cos(\alpha + \beta) = 2 \sin \alpha \sin \beta$$

$$\therefore P_2 - P_1 = V_r I \times 2 \sin 30^\circ \sin \theta = V_r I \times 2 \times \frac{1}{2} \sin \theta = V_r I \sin \theta = \sqrt{3} V I \sin \theta$$

$$\frac{\text{三相 **無効** 電力}}{\sqrt{3}}$$

これにより, **2** つの電力計の指示値の **差** の $\sqrt{3}$ 倍が三相 **無効** 電力と等しい

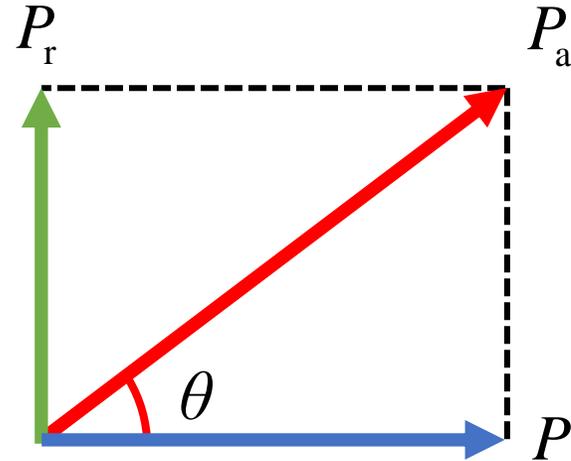
※ W_2 の結線を変更し, 測定する線間電圧を \dot{V}_{vw} とする場合, 無効電力の計算は $P_1 - P_2$ となる

※ θ が **60°** 以上の場合, $P_1 < 0$ となるので, 電力計の電圧コイルの極性を変える必要がある

二電力計法による各種電力と力率の計算

三相 **無効** 電力

$$P_r = 3VI \sin \theta \\ = \sqrt{3}(P_1 - P_2)$$



三相 **皮相** 電力

$$P_a = 3VI \\ = \sqrt{P^2 + P_r^2}$$

力率

$$\cos \theta = \frac{P}{P_a}$$

各種電力の別記及び単位

$$P = P \quad [\mathbf{W}] \quad : \text{ワット} \\ P_r = \mathbf{Q} \quad [\mathbf{var}] \quad : \text{ヴァール} \\ P_a = \mathbf{S} \quad [\mathbf{VA}] \quad : \text{ボルトアンペア}$$

三相 **有効** 電力

$$P = 3VI \cos \theta \\ = P_1 + P_2$$

無効率

$$\sin \theta = \frac{P_r}{P_a}$$

2つの单相電力計の指示値のみで各種 **電力** (有効, 無効, 皮相) 及び **力率** を測定可能

二電力計法による力率の計算（特殊な場合）

両電力計 W_1, W_2 の
各電力 P_1, P_2 の **和**と **差** を用いて,

$$\frac{P_2 - P_1}{P_2 + P_1} = \frac{\sqrt{3}VI \sin \theta}{3VI \cos \theta} = \frac{1}{\sqrt{3}} \cdot \frac{\sin \theta}{\cos \theta} = \frac{\tan \theta}{\sqrt{3}}$$

式を変形して,

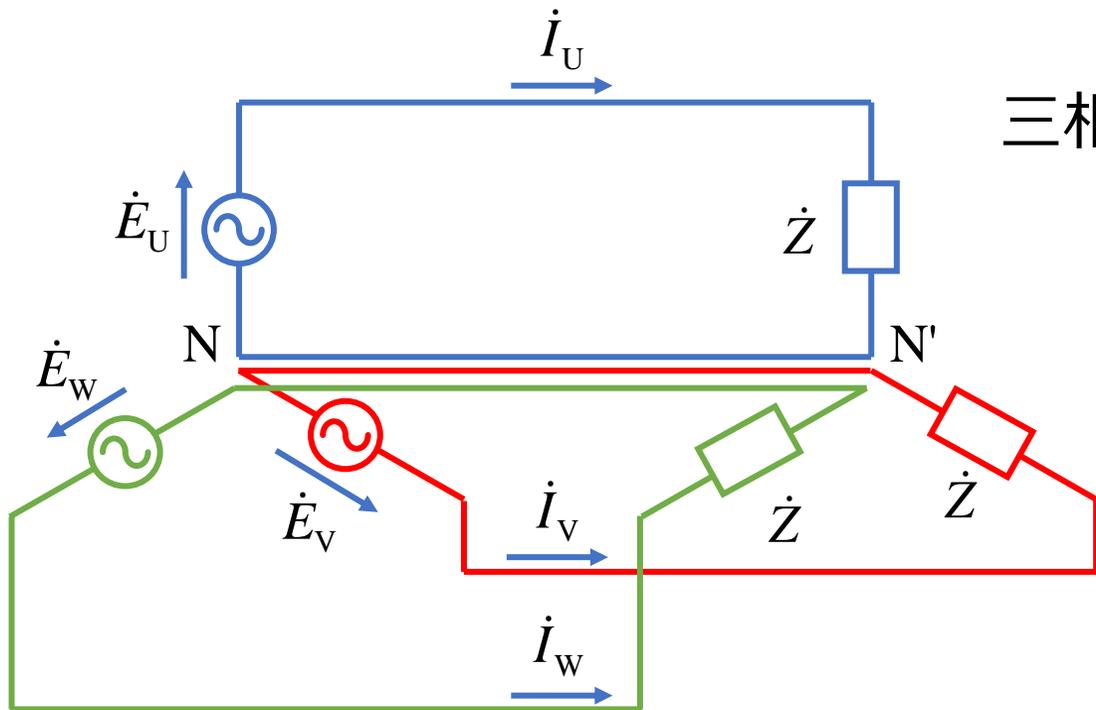
$$\tan \theta = \sqrt{3} \cdot \frac{P_2 - P_1}{P_2 + P_1} = \sqrt{3} \cdot \frac{1 - \frac{P_1}{P_2}}{1 + \frac{P_1}{P_2}} = \sqrt{3} \cdot \frac{1 - \alpha}{1 + \alpha} \quad \left(\alpha = \frac{P_1}{P_2} \right)$$

三角関数の公式より,

$$\cos \theta = \frac{1}{\sqrt{1 + \tan^2 \theta}} = \frac{1}{\sqrt{1 + 3 \cdot \left(\frac{1 - \alpha}{1 + \alpha} \right)^2}} = \frac{1 + \alpha}{2\sqrt{1 - \alpha + \alpha^2}}$$

2つの单相電力計の値の比のみで, **力率** を計算可能

二電力計法なら非対称三相交流でも計測できる理由



三相交流の瞬時電力は, $P = e_U i_U + e_V i_V + e_W i_W$

KCLより, $i_U + i_V + i_W = 0$

$$\begin{aligned} \therefore P &= e_U i_U + e_V i_V + e_W i_W \\ &= e_U i_U + e_V (-i_U - i_W) + e_W i_W \\ &= (e_U - e_V) i_U + (e_W - e_V) i_W \end{aligned}$$

W_1

W_2

→ $W_1 : i_U$ と \dot{V}_{UV} を測定
 $W_2 : i_W$ と $-\dot{V}_{VW}$ を測定

各相の電流の **和** は不平衡でも **ゼロ** となる
線間 電圧と **相** 電流 (**線** 電流) は
他の結線方法の全てに共通して存在する